

老健たより

第5号



'95.1.13 書初め

明るい笑顔、大事にしたいです。

平成7年 新年を迎えて	2
第2回老人保健施設研究発表会	3 . 4 . 5
介護シリーズ 一ねまきの換え方一	5
行事紹介 H 6.11月～H 7.2月まで	6
在宅ケア部より	7
老健を利用する家族の思い	8
利用者からひとこと	8
お知らせ	8

年頭の挨拶



施設長 尚 谷

その他ではレクリエーションをできるだけ多くとりいれています。又付添いは一切ありませんので家族とのかわりをなくさないように、又老人を孤独にしないようにしております。

八鹿病院併設の老人保健施設も今年で三才を迎えました。

平成六年の一年間の利用者は約六百名で、その中の三分の一の二百名がショート利用でした。利用者の平均年齢は八一才で、男性一九七名、女性四〇三名、構成六ヶ町の利用者三四七名で五八%をしめております。当施設ではショートの利用者が多く、冠婚葬祭や介護者の病気等の緊急的な事態にはできるだけ対応しております。

当施設で、最も力を入れているのはリハビリであります。手足の訓練、歩行訓練、車椅子からの移動をできるだけ自力でやれるようにやっております。又作業療法も週二回は実施しており、その効果も期待されつあります。

平成七年四月からはデイケアを昨年よりも一層充実したものにしたいと考えております。送迎の問題もあり、その体制を整えるべく準備中であります。

老人保健施設も地域住民の皆様方に御理解されてまいりまして上手に利用されつつあります。職員一同より一層頑張ってやっていく所存でござりますので皆様方の御指導と御鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成7年 新年を迎えて



施設長 節 田 米

三年目は節目の時、介護の質を高めよう

①皆で築いてきたもの
但馬で初めての老健でもあり大きな期待と注目をあび開所となつた当老健も三年目の新年を迎えた。スマースな業務の展開が出来るだらうかと不安なスタートであった事が昨日のように思い出される。

介護の仕方次第で表情や身體機能の変化が異なることの喜びや多くの問題にもぶつかつた。ADLもC、B₂レベルが多く高度医療の知識技術を要する入所者への対応も皆必死で頑張り対処してくれた。一番不慣れで恥づかしかった司会もすっかり板につき楽しい盛り上がりを見せている。全国老健大会や研究発表会ではりっぱに論旨をまとめ堂々の発表が

②振り返つてみよう。
日々の業務
しかし今考えてみなければならない大切な事は、三年目ともなると慣れてきた事による怠慢や出来ている、やつて現状である。

三年目は何事に於いても節目の時と言われている。折角築きあげた土台をよりよいものにしていく為に自分達本位の満足感にひたつてはならない時なのである。入所者が本当に満足しているか、一人一人を尊重し声かけや介護が出来

事で利用者に喜ばれている。在宅へのステップ支援では支援センターや老人訪問看護スルではの特性を生かし行なう

者や痴呆の人、C・Bレベル

の人等対象者別で病院併設な

テーション、関係地域との連携を保ちながら、よりよい在宅支援システムを図っている

ているか、外の流れをくみながら、独自性のある老健づくりを職員一丸となりめざしているか等々原点にもどり反省してみる必要のある時だと思ふ。そうして新たに歩き始めた時、今まで以上のパワーと成果を生み出す事が出来ると期待するものである。

③求められるケアプランへの取り組み

今、全国の老健に求められているものは「ケアプランへの取り組み」である。老健の量的整備から質的向上へと目が向けられている。個々のケアプランを立て実践する事は入所者の自立化と介護ケアの質が高まる。又職員の活性化とチームケアの充実が図られる事の意義がある。入所者と職員とが同じ土俵に立ちケープランを立てる事はカルテの中でもう眠つたものでないやりがいのつかめるプランとなっていくのである。受け持ちの力はどんどん發揮出来るのである。



④研修会への参加を積極的に

研修会や研究発表会への参加は悩みの解消の場でもあり研鑽を重ねることは必ず誇りや自信につながっていく。今や病院や老健でも厳しく質の評価や職員の姿勢が問われる時代となつた。全国老健大会では全国の仲間の活躍ぶりを肌で感じ負けてはおれない刺激を感じたと思う。老健で働く事の素晴しさをどんどんPR出来る職場づくりをめざし、今年も頑張って欲しいと思う。

第一回 老人保健施設研究発表会

平成六年十一月三十日に公立八鹿病院会議室に於て、第二回老人保健施設、研究発表会を行いました。高齢化が進む地域の施設職員として、日々の業務を振り返り、一步一步前進できる施設として、スタッフの熱意が伝わる発表会でした。

第2回老人保健施設研究発表会

《演題及び発表者》

『座長 柴山 慎一』

1. 公立八鹿病院老人保健施設の現状と課題
——退所者の実態調査をもとに——
◎内田 美穂
2. 公立八鹿病院老人保健施設における痴呆性老人の状況
——一年間の統計より——
◎古川 綾子
3. 痴呆性老人に対するケアの現状と援助
——事例をとおして——
◎小橋 誠・藤田 雅子・守本 恵子
山本 初音・旗谷多香子・米田 民子
藤原 二栄・森本やす子
『座長 米田 節子』
4. 孤立した老夫婦の入所について考える
◎三井美登里・田中多佳子・日下部富江
小島 道代・西谷 文香・稻津 幸子
日野 照彦・宮谷すゑ子
5. 施設内生活に対する意識調査を実施して
——入所者アンケートよりの考察——
◎西田三代子・井上 勝代・田村美佐子
北見 珠紀・中平 美春・大垣 弘子
『座長 伊澤 けい子』
6. 老人保健施設退所者の訪問リハビリテーションを経験して
◎武中 裕子・田原 重穂
安原さおり・吉谷 祥子
7. 老人保健施設の経緯と今後の課題
◎本谷 国雄



痴呆性老人に対するケアの現状と援助

事例をとおして

頑固だがやさしい
職業
獣師

はじめに

介護福祉士

小橋誠

精神症状や問題行動があり、介護者の関わり方が介護を行なうべきわめて重要なと思われます。Iさん

Iさんの事例を通して、痴呆性老人に対するケアの現状と援助について、今後の課題を含め報告します。

事例

Iさん・八十五歳・男性
病名
脳梗塞、老人性痴呆

ADL

Bレベル、自立歩行可、排泄(おしめ)

問題行動
徘徊、興奮、大声、不潔行為

長谷川式スケール

性格

痴呆性老人への関わり方のポイントとして、忍耐強く柔軟性のある態度、受容、共感的な対応、個々の老人の尊重。
最後に老人が人間としての尊厳を保つていけるような援助を行うためには、常

に老人から学ぶ姿勢をもつことが大切であると思います。また、家族が二十四時間も抜けない介護の日々に心身共に困り果てている現状を十分理解し、支援していく気持ちを持つことが重要であると考えます。

入所時状況

鏡に映る自分の姿を兄弟と思い込み興奮したり、エレベーターの前に座りこんで、開くとすこさず乗り込むので監視が必要な状態でした。また、不眠が続き環境の変化から嘔吐を繰り返しました。

介護経過

問題点と目標をあげ介護を実践しました。気の合うグループと一緒にし、リーダー的存在になるように努めました。Iさんに対して痴呆性老人だからといって、曖昧な態度で接するのではなく、よき理解者として援助していきました。

考察・まとめ

施設内生活に対する意識調査を実施して入所者アンケートよりの考察

主任 西田三代子

はじめに

老人保健施設(以後老健と称す)の基本方針は、老人の自立を支援し、その家庭復帰をめざすものでなければならぬ。施設は明る

に老人に対する老人の認識度。
②レクリエーションに対する思いと要望について
③余暇時間の過ごし方にについて
(1) 調査対象
入所日数二週間以上経過しており、意志疎通可能な人に聞き取り調査を行った。(四十三名)

④余暇時間については、休憩しているといふとする人が多いが、その他の意見は様々であり、今後、個別的な関わり方の検討が必要である。



(1) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(2) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月一日

(3) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(4) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(5) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(6) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(7) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(8) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(9) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(10) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(11) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(12) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(13) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(14) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(15) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(16) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(17) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(18) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(19) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(20) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(21) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(22) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(23) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(24) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(25) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(26) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(27) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(28) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(29) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(30) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(31) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(32) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(33) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(34) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(35) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(36) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(37) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(38) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(39) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(40) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(41) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(42) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(43) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(44) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(45) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(46) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(47) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(48) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(49) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(50) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(51) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(52) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(53) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(54) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(55) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(56) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(57) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(58) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(59) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(60) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(61) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(62) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(63) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(64) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(65) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(66) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(67) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(68) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(69) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(70) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(71) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(72) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(73) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(74) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(75) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(76) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(77) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(78) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(79) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(80) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(81) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(82) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(83) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(84) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(85) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(86) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(87) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(88) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(89) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(90) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(91) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(92) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(93) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(94) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(95) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(96) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(97) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(98) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(99) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(100) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(101) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(102) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(103) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(104) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(105) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(106) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(107) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(108) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(109) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(110) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(111) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(112) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(113) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(114) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(115) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(116) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(117) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(118) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(119) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(120) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(121) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(122) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(123) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(124) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(125) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(126) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(127) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(128) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(129) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(130) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(131) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(132) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(133) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(134) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(135) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(136) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(137) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(138) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(139) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(140) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(141) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(142) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(143) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(144) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(145) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(146) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(147) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(148) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(149) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(150) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(151) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(152) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(153) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(154) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(155) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(156) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(157) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(158) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(159) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(160) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(161) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(162) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(163) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(164) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(165) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(166) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(167) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(168) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(169) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(170) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(171) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(172) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(173) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(174) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(175) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(176) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(177) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(178) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(179) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(180) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(181) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(182) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(183) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(184) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(185) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(186) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(187) 調査結果よりのまとめ
平成六年九月三十日

(188) 調査結果よりのまとめ
平

介護福祉士

三方 美登里

孤立した老夫婦の入所について考える

はじめに
当老人保健施設が開設されて、2年が経過し、高齢者世帯の入所者も増加している。今回、夫が脳梗塞後遺症にて左半身麻痺の障害を持ち、発症後、医療機関と福祉施設を行き来し、子供達の介護協力が困難であり、又、妻が介護に他の者を受け入れない孤立した老夫婦の援助と、希望していた在宅生活が達成できた経過を紹介する。

介護の問題点として

- ①妻は自分のやり方以外の介護が受け入れられない。
- ②夫の妻への依存心が強い。
- ③在宅に向けての介護負担の軽減を図る必要がある。



2 横向きにして、差し込んだねまきを引き出し、片方(不自由な側)を脱がせます



3 新しいねまきを不自由な側から着せます



4 背と衿を合わせて、残りを体の下に差し込みます(紐も入れておく)



5 仰向けにして、ねまきを引き出し、手前(健康な側)の袖を着せます



6 両脇の縫い目を横に引き、また、裾を下に引き、しわをとります
衿を合わせて、紐を結びます



の問、夫は妻のそばから離れ車椅子で散歩するまでになり、ADLにわずか向上がみられた。孤立した状態にあった夫婦が、次第に他の入所者と会話し、徐々に明るくなり、視野の広がりと心の余裕から、夫への介護に柔軟性が出てきた。

問題点③の介護負担の一

番の原因として、夜間の頻尿と妄想があつた。泌尿器科医師と相談し内服と眠剤で緩和してきた。現在夫婦は希望した我が家で、福祉サービスの支援を週5回受け、在宅生活を楽しんでいます。

介護シリーズ

ねまきの換え方

ねたきりで、一日中ねまきを着てている場合は、できるだけ毎日着がえます。汗が出た時は、そのつど換えてあげましょう。

片側に麻痺や痛みのある場合のコツ
着せる時は不自由な側から、脱がせる時は健全な側から

ねまきの選び方

- 吸湿性があり、肌ざわりがよく、洗濯に耐える木綿のもの
- 清潔で乾燥しているもの(のりはしない)
- 背縫いや衿がなく、丈が長くないもの
- 脱ぎ着や、介護がしやすいもの
- お年寄りの好みに合い、希望を感じさせる色柄のもの

換え方

皮膚を摩擦しないように、また、しわをつくらないように注意しましょう。

ゆかた式

- 1 紐をほどき、手前(健康な側)の肩から脱がせ、内巻きにして、体の下に差し込みます





かわいい花嫁さん。昔を思い出されます。



行事紹介

H 6.11～H 7.2

老健施設文化祭

11月22日～11月25日

いろいろな展示物。私の作品はどれかな。



クリスマス会

12月21日

かわいいサンタさん。どんな
プレゼントくれるのかな。



新年会

1月11日

乾杯。みんなで新年のご挨拶。



節分 まめまき

2月3日

鬼は外。福は内。みんなで鬼退治。

在宅ケア部より

「丁子氏を訪問して」 院困難にて、再度N医院の父

子氏を訪問し

現在、在宅ケア部の訪問対象者は百名であり、その内、各地域の開業医からの訪問看護指示書で訪問している人は二二名である。

現在、在宅ケア部の訪問対者は百名であり、その内、地域の開業医からの訪問看指示書で訪問している人は一名である。

この度和田山町のN医院より脳梗塞後遺症により寝たきりとなった八六才の女性に対し、訪問看護の依頼があつた、N医院からの訪問看護の依頼は三例目であり、N医師とも何度かお会いしている。今回このケースに關った訪問看護婦、開業医・患者家族との密な連携により、患者家族が安心し安定した在宅療養を

T子氏は次男夫婦と孫との四人暮しである。H六年八月より右半身不全麻痺にてN医院の紹介でS病院で三ヶ月間脳梗塞の治療を受けた。退院後、嫁が介護にあたり寝たきりのT子氏を車に乗せ月二回S病院へ通院していたが、通

言ふ事は聞かない。機能訓練を行えばもう少し動ける様になるのではと思う。訪問してやつてもらえんでしょうか。それから尿が十分出てない様だとの情報を得て、訪問した。

T子氏の方が快く迎えてくれた。T子氏の部屋へ案内された。ギヤッジベッドにT子氏は臥床しており、側にポータブルトイレが配置してあった。T子氏は笑顔で“お世話になり

介護者の血圧測定も行い介護の悩みにもじっくり耳を傾け、今迄の介護に対し、ねぎらいの言葉をかけ精神面への援助を心がけた。

ポータブルトイレに移つても
坐つとれん。すぐベッドに上
げんなん。動かす度にしつこ
がもれる。夜もその繰り返し
ですわ”と、介護疲れが増強
している状態であった。嫁は
頭痛と腰痛を訴えており、不
眠からくる疲労と考えられた

テル交換にて管理していく様
家族にも承諾を得た。嫁は、
”週二回来てもらえるんですね
か、うれしいです。よろしく
お願ひします。とても安心で
す。管(バルンカテーテル)
袋(ウロガード)は薬をもらい
に行く時、頂いてきます”と
うれしそうに答えてくれた。

に経過し嫁は、今迄の大変だった状態が嘘の様です。排便の時と食事の時は、坐らせています”。と介護に前向きな姿勢が伺える様になった。今後、バルンカテーテル留置により、ADLの低下が予測される為PT訪問を定期的

に組み入れ移動動作や、介助方法の指導にあたってもらい A DLの維持に努めていきた
いと考えている。

今回のケースの様に、訪問看護婦が主治医の元に、再々足を運び、密な連携がとれた事は、患者家族のかかえる問題点や、それらに対する援助策・又目標の共有をはかる事が出来た。その結果、患者家族の安心感へとつながり介護へのゆとりが生まれ、やさし



い表情、言葉かけがもどつて
きた。

老健を利用する家族の思い

梅谷せつよ

外は雪です。薄墨色の空から雪がひっきりなしに舞いおりて来ます。それを温室のように病室から眺めながら昨冬のことを思いだします。

入所者ひとりひとりの多様化したケアを少人数の職員の方々が献身的に盡して下さるお姿に心から感謝しています。

暗く底冷えのする家の中で、

じっと耐えた長い長い冬、殊

に寒暖の差は夫のからだに随

分こたえたようでした。それ

にひきかえ今年は寒い冬を窓

越しに眺めながら、こんな暖

い所で過させて頂き本当にもつ

たいないと思います。いつか

も夜中から嘔吐と下痢を繰り

返し、私が老健に行った時に

は既に入院させてもらっていました。又先日も四十度以上

の高熱を出し再入院させて頂

きました。こんな時家で介護

していたらきっとひとりでう

ろたえていたことでしょう。

このように病院まで廊下伝い

に緊急の対応をして頂けることや、介護者を精神的身体的に支えて頂けること、又毎日

先生が来て下さること等入所者にとってどんなに心強いかわかりません。

しょうか。少々恥ずかしくもあります。こうした施設内でのお世話して頂く様子や、いろいろな行事が一般の方々の目に届く事が少ないのは残念に思います。

全ての人が辿りつく老後。老いて正常な健康が保障される人はひとりもありません。私達の老後に福祉という光明がさんさんと輝く事を信じ、皆様に助力を頂き、二人のバモウリをして行きたいと思

います。

平成七年の新年を御迎えさせて頂きましたお目出度うございます。この新しい立派な設備の整った老健でお正月を迎えて頂きました事は私に取りましては、幸せなお正月でございました。十二月に入所させて頂きました。二回目

の新しい但馬では珍しい立派な設備の充実した老健に入所させて頂き、先生、職員御一同様の、心のこもった笑顔で昼夜御いといなく私達病める老人達を相手に处置をして頂きどんないやな事でも笑顔でして頂ける事はほんとうに感謝させて頂いています。又いろいろと相談相手にもなって頂きいろいろな事にも笑顔の絶え間なくほんとうに感謝一ぱいでございます。

長瀬勝利(看護士)
長女 彩香 H 6・7・28
日野照彦(介護職員)
長男 史輝 H 6・11・30
田公貴子(介護職員)
次女 梓 H 7・2・7
出産

お知らせ

編集後記

謹んで地震災害のお見舞い

を申し上げます。

平成七年一月十七日。予測

もしなかつた阪神大震災が早

朝の街並を襲い、多くの犠牲者と大きな傷跡を残しました。

人と人が協力しながら生き足にならない様にと職員様の笑顔と共に、リハビリ運動、レクリエーション等も指導し

利用者からひとこと

谷口八千代

て頂きほんとうに充実した日課を続けさせて頂いておりました。御かけ様で歩行も杖で少し出来ます様にして頂き、ほんとうに入所させて頂いた御

かげと感謝の気持ちで一ぱいです。ありがとうございます。職員御一同様には、ますま

す御健康に留意して頂きまして私達老人をよろしく御指導下さいます様御願い致します。

た。職員御一同様には、ますま

す御健康に留意して頂きまして私達老人をよろしく御指導下さいます様御願い致します。

